

ちよだ社協 令和4年度 事業報告(案)の概要(社会福祉事業区分)

主な取組み

1

地域福祉推進の取組み①

- (1) 日常の困りごと把握と課題解決にむけた連携支援及びふたばサービス事業のマッチング機能強化
 (2) 居場所(住民主体のサロン)の充実などコロナ禍における孤立しない地域づくりの推進

(地域支援課 地域支援係)

2

地域福祉推進の取組み②

- (1) 地域福祉の相談・活動拠点としての機能強化

(地域支援課 アキバ分室)

3

ボランティア・市民活動推進の取組み

- (1) 課題解決型ボランティアセンターとしての広報周知と登録ボランティアのマッチング強化
 (2) 災害ボランティアセンターとしてのつながりづくり

(地域支援課 ボランティア係)

4

権利擁護・成年後見事業の取組み

- (1) 成年後見推進機関としての広報・相談機能の強化
 (2) 地域における権利擁護人材の育成とつながりづくり

(地域支援課 成年後見係)

主な成果等

(1) 日常の困りごと把握と課題解決にむけた連携支援及びふたばサービス事業のマッチング機能強化

- 地域の課題や困りごと解決のきっかけづくり、情報共有の機会として町会福祉部連絡会を実施しました(6地区延べ参加者数 201名)。特にニーズの高かったオンライン活用について、学生等ボランティアをコーディネートし、講座を実施しました(計5町会、延べ参加者数 85名、延べボランティア数 22名)。
 また、複雑多様な地域の困りごとに気づき、見守り方や関係機関との連携の方法についての学習会を開催しました(参加者数 58名)。
 ○ふたばサービス事業のマッチング機能強化のため、アプリの開発・活用を試行的に実施しました。新規会員の獲得および支援会員の活動支援のため、説明会・学習会を実施しました(延べ参加者数 26名)。

(2) 居場所(住民主体のサロン)の充実などコロナ禍における孤立しない地域づくりの推進

- はあとサロンボランティア学習会を開催し、ボランティア主体のサロンプログラム(3企画)を実施しました。また、介護予防・地域参加のきっかけづくりとして「はあとサロン体操プログラム」でのポイ活(ポイントを貯める活動)事業を行いました(延べ参加者数 190名)。
 ○近年増加している発達に課題のある子どもとその保護者の居場所づくりについて他地区の視察にいくなど検討を始めました。

(1) 地域福祉の相談・活動拠点としての機能強化

- 開設から1年、神田地区の身近な相談拠点となるよう、周知しました。(延べ来所者数 2,090名、相談件数 631件)
 ○多世代が楽しみ、ボランティア活動できる場として、「アキバみりおん縁日」や「アキバ de クリスマス会」などの季節イベントや「プラモデルサロン」等を開催しました。(延べ参加者数 295名、ボランティア活動者 121名)
 ○子育て世代が気軽に集える場として「アキバ子育て広場」・「アキバみんなのサロン」を開催しました。(延べ参加者数 498名、計 51回)
 ○地域福祉の推進に役立つ学びの場としてご近所福祉活動「ひきこもり学習会」を開催しました。(参加者 32名)
 ○神田地区の地域防災を考える機会として近隣企業に声かけし、「企業防災情報交換会」を開催しました。(参加企業 6社 8名)

(1) 課題解決型ボランティアセンターとしての広報周知と登録ボランティアのマッチング強化

- 関係機関からの「子どもたちが安心して過ごせる居場所が少ない」という相談に対し、学生ネット(大学生ボランティアサークルのネットワーク)が「夏休みの宿題を進める会」として居場所づくりを試行的に実施しました。(実施回数 5回/延べ 30名参加)。
 ○企業×福祉施設による地域福祉課題解プロジェクトとして、6つプロジェクトを実施しました。また、区内企業による課題解決型のコーディネート事例をまとめたパンフレットを作成しました。

(2) 災害ボランティアセンターとしてのつながりづくり

- これまで社協職員の内部研修として実施していた「災害ボランティアセンター開設・運営訓練」を、地元町会、区内企業、NPO・NGO など広範な区民も公募した「区民参加型」訓練として試行的に実施しました(公募区民 19名、社協職員 21名参加)。

(1) 成年後見推進機関としての広報・相談機能の強化

- センター事業の周知を図るため、関係機関に広く案内し、センター事業についての説明会を行いました。(参加者:14事業所、計 24名)
 ○成年後見制度について、本人や家族を支援する福祉関係機関等の支援者のための「成年後見制度活用ハンドブック」を作成しました。

(2) 地域における権利擁護人材の育成とつながりづくり

- 権利擁護人材である地域生活支援員として新たに9名が登録し、活動につながるとともに、昨年度しくみを整理した法人後見協力員も3名の方が活動を開始しました。個々の適正にあわせて活動できるよう権利擁護人材の支援と事例検討などの研修を行いました(参加者 21名)。
 ○「千代田区地域福祉計画 2022」に包含された「千代田区成年後見制度利用促進基本計画」を受けて、「権利擁護活動計画」を策定しました。その中で、権利擁護支援に関わる地域連携ネットワークを形成するとともに、本人に関わる支援チームの形成支援の仕組みづくりを行いました。

主な取組み

5

高齢者活動センターの取組み

- (1) 介護予防や健康づくり、交流事業の充実及び広報の強化による新規利用の促進
- (2) フレイル予防や高齢者のデジタル機器の利用促進
(活動推進課 高齢者活動センター)

6

多世代交流事業「Ciao！」の取組み

- (1) 魅力あるプログラムの実施と参加者同士の交流及び多世代が定例で集まれる居場所の再構築
(活動推進課 多世代交流担当)

7

研修センターの取組み

- (1) ボランティアの養成
 - ① 認知症サポーターの活動支援研修
 - ② 入門的介護講座等の実施
- (2) 介護・福祉・医療従事者向け研修と介護職の人材確保
 - ① 人材の定着支援研修や広報研修の実施
 - ② 相談面接会や介護初任者資格取得研修を通じた介護人材の確保
(活動推進課 研修センター)

8

生活に困難を抱えている世帯等への取組み

- (1) 生活福祉資金特例貸付利用世帯等、新型コロナの影響により経済的ダメージを受けている世帯への継続的な相談支援
- (2) 区内社会福祉法人のネットワークを活用した住民サービスの提供とその利用促進
(総務課 援護係)

9

法人運営・組織強化の取組み

- (1) 千代田区地域福祉活動計画「はあとプラン」(第6次)の策定
- (2) 創立70周年事業の実施
(総務課 総務係)

主な成果等

(1) 介護予防や健康づくり、交流事業の充実及び広報の強化による新規利用の促進

- ① 理学療法士による運動サポート相談(73回/169名)やスポット体操(22回/262名)を定期的の実施しました。
- ② 同好会や利用者の協力を得て、新規利用者でも気軽に参加できるよう「ご新規 day」(ビリヤード:16回 53名・卓球:9回 60名・ゴルフ:9回 18名)を実施、また納涼会や節分福まき会では子どもから高齢者まで交流をはかりました。(2回/191名)
- ③ 月報「のぞみ」をリニューアルし、リニューアル後は高齢者活動センターで活躍する人の声を掲載し、活動センターの魅力をPRしてきました。

(2) フレイル予防や高齢者のデジタル機器の利用促進

- ① かがやき大学では健康やフレイル予防に加え、eスポーツやスマホなど新たなテーマも取り入れ、様々な講座を実施しました。(健康講座のみ 14講座 721名)。また記念講演会を2回実施し、オンラインでかがやきプラザとアキバ分室をつないで実施しました。(2回/101名)
- ② 企業や大学生ボランティア等の協力を得て、定期的にパソコンサロン、スマホサロンを実施し、高齢者のデジタル機器に関する課題等を一緒に解決してきました。(パソコンサロン 25回/90名 スマホサロン 23回/141名)

(1) 魅力あるプログラムの実施と参加者同士の交流及び多世代が定例で集まれる居場所の再構築

- ① 大使館や大学、企業、NPO、ボランティアサークル等と協働し、化石発掘や手話体験、異国文化を学ぶなど様々なテーマでひだまりサロンを毎月開催し、参加者同士のゆるやかなつながりづくりに取り組みました。(13回/266名)
- ② 俳句やミュージックワークショップ、VRによる認知症体験や哲学カフェなど、子どもから高齢者までが年齢を問わずに交流を図る多世代交流カレッジを実施しました。(19回/430名)
- ③ 新たな取り組みとして、多世代で協力しながら場づくりをしていくために、プレイワーカー養成講座を実施しました。講座修了生の有志であそび場イベント「チャオのみちあそび」を実施しました。(講座:4回/23名・みちあそび:1回/41名)

(1) ボランティアの養成

- ① 認知症サポーターステップアップ講座を開催し、学びと認知症カフェや実桜(みお)の会(認知症本人ミーティング)等でのボランティア体験や報告会も開催し、終了後は区のオレンジサポーターの登録(7名)につなげました。(講座・報告会:計4回/53名、ボランティア体験:22名)
- ② 介護に関する入門的研修を開催し、これまで介護との関わりがなかった人などが介護に関する基本的な知識を身につけることで、介護に関心をもつ人を増やし、介護の仕事やボランティア活動への参加のきっかけをつくりました。(講座:6回/101名)

(2) 介護・福祉・医療従事者向け研修と介護職の人材確保

- ① 「カイゴ・フクシのしごと相談面接会」を年2回開催し、介護の魅力を伝えるトークイベントと面接会を開催しました。(2回/67名、就職3名)
- ② 新たに介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級)を開催し、受講者を相談面接会の参加につなげ、就職支援を行いました。(1回/4名)

(1) 生活福祉資金特例貸付利用世帯等、新型コロナの影響により経済的ダメージを受けている世帯への継続的な相談支援

- 引き続き生活福祉資金コロナ特例貸付の相談・受付(令和4年9月末をもって貸付制度は終了)を行うとともに、令和5年1月からの償還開始を受けて、借受人世帯からの相談に応じた書類作成や添付書類確認等の手続き支援、償還が困難な世帯に対する償還免除・償還猶予・少額返済等の相談支援を行いました。また、貸付利用後も経済的困窮から脱しきれない世帯や貸付対象外となった世帯に対しては、区生活支援課(区福祉事務所)を始めとした関係機関と連携して、継続的な相談支援を行いました。(特例借入受付計94件、相談・手続き支援等対応延べ405件)

(2) 区内社会福祉法人のネットワークを活用した住民サービスの提供とその利用促進

- 住民サービス提供の主体となる区内社会福祉法人ネットワークの再構築と当該ネットワークの目的再確認およびネットワーク構成員の意思統一等を目的に、連絡会(計2回)と講座・意見交換会(各1回)を開催しました。

(1) 千代田区地域福祉活動計画「はあとプラン」(第6次)の策定

- 行政の「千代田区地域福祉計画 2022」に対応した、区にどう多様な人々と協働した地域福祉推進のための具体的な取組を検討するため、策定委員会(計5回)、分科会(計6回)、地域の方々へのインタビューを実施したうえ、5年間の活動計画「はあとプラン」を策定しました。

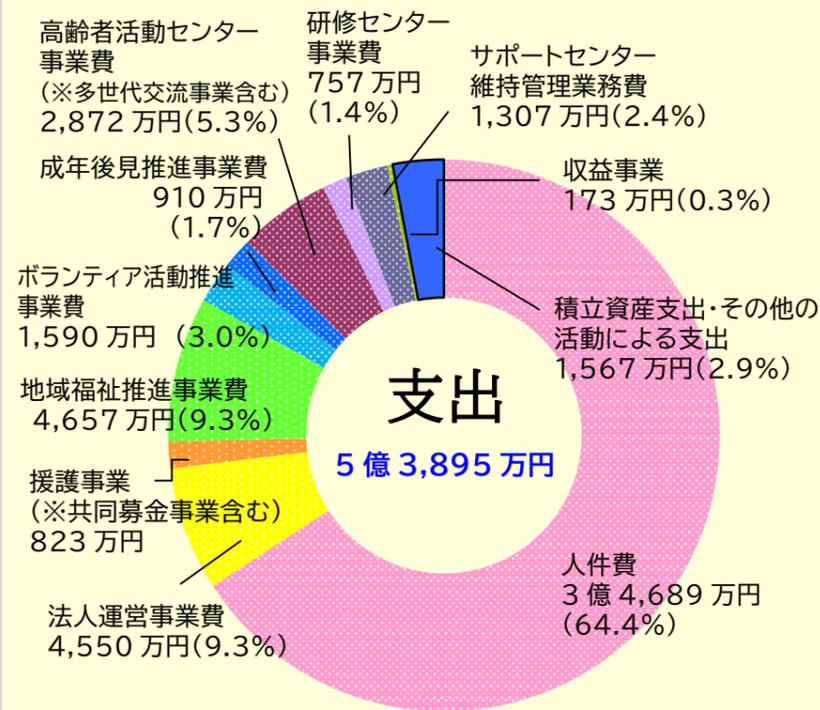
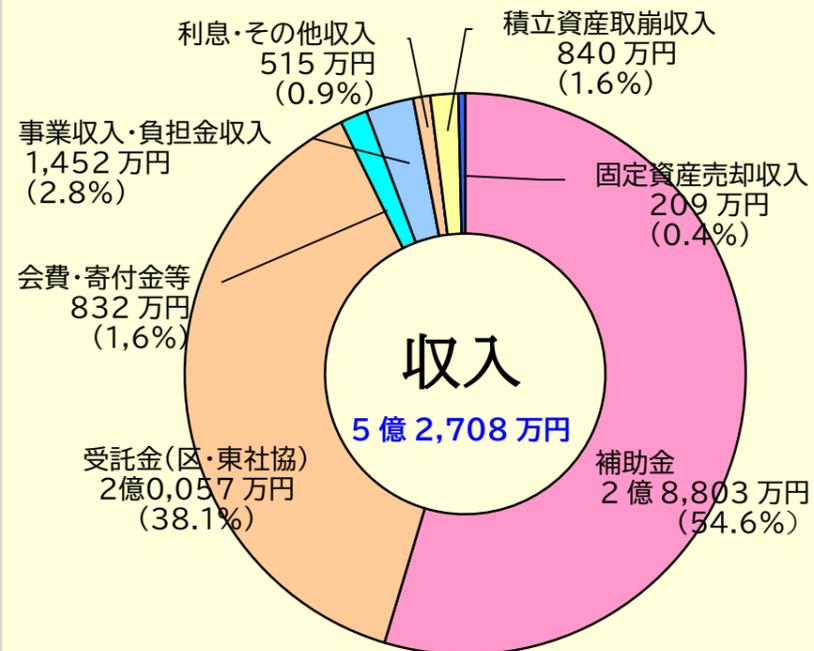
(2) 創立70周年事業の実施

- 日頃協働いただいている皆様への感謝と、多様な方々が主体となった地域福祉推進を中核的に担う法人である決意を新たにすため記念式典を開催した他(参加者212名)、記念誌、新しい法人ロゴマーク、あいさつを広めるための絵本「にっこのカギ」等を制作しました。



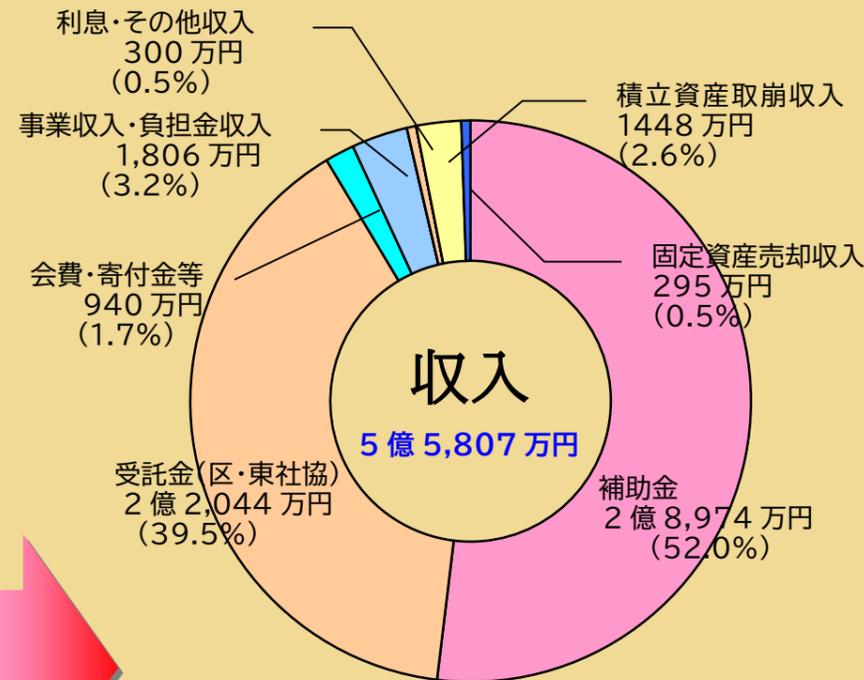
ちよだ社協 令和4年度 決算の概要 (案) (法人単位資金収支計算書より)

令和3年度 決算額

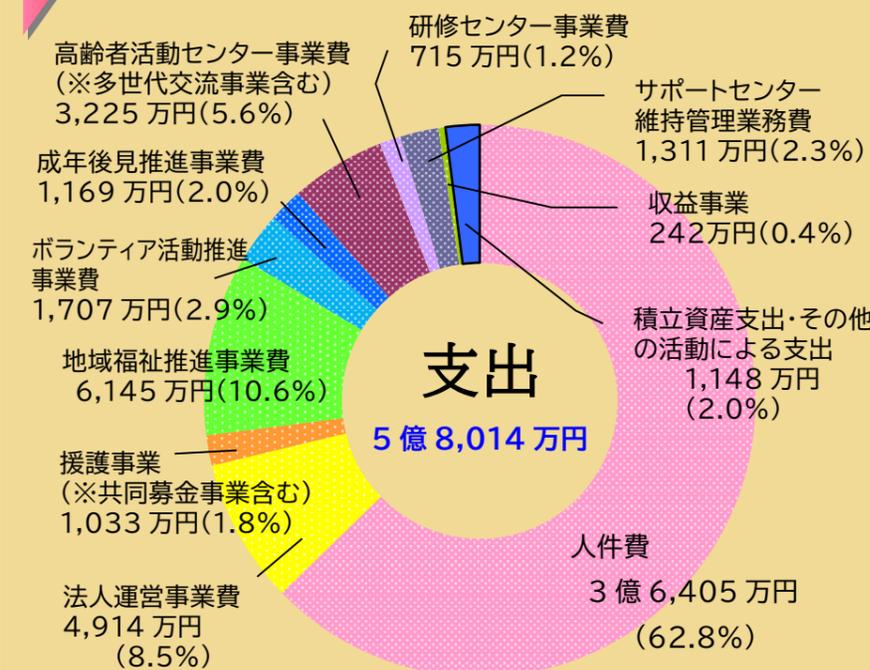


①当期資金収支差額 ▲1,187万円
 ②当期活動増減差額 ▲1,289万円
 ③純資産合計額 6億3,633万円

令和4年度 決算額



<前年度比 3,099万円増 5.9%増>



<前年度比 4,119万円増(7.6%増)>

①当期資金収支差額 ▲2,207万円(資金収支計算書より)
 ②当期活動増減差額 ▲2,208万円(事業活動計算書より)
 ③純資産合計額 6億1,425万円(財産目録より)

特記事項

【収入について】

- 受託金収入の増額(約1,987万円増)
 - ・定期昇給および昇任により、人件費が増額となりました。
 - ・シルバートレーニングスタジオ事業の講師に支払う謝礼金、かがやきプラザ 5階受付業務に対する委託金が増額となりました。
- 事業収入・負担金収入(約354万円増)
 - ・新型コロナウイルスの影響で中止していた事業等の再開による参加費・利用料収入の増加により、増額となりました。
 - ・成年後見負担金収益(後見人報酬等)の増加により、増額となりました。
- 積立資産取崩収入(約608万円増)
 - ・退職者3名分(定年退職1名、自己都合退職2名)の退職金充当費用が発生したことで、昨年度より増額となりました。
- 利息・その他収入の減額
 - ・自動販売機手数料収入減少により減額となりました。

【支出について】

- 人件費支出の増額(約1,716万円増)
 - ・年度途中での退職及び休職者の代替のための職員の補充により増額となりました。
 - ・機能回復訓練(高齢者活動センターで実施)拡充のため、理学療法士による指導時間の増加により、増額となりました。
- 法人運営事業費の増額(約364万円増)
 - ・創立70周年記念式典実施や地域福祉活動計画策定のための事務費増加により、増額となりました。
- 地域福祉推進事業費の増額(約1,488万円増)
 - ・新型コロナウイルスの影響で昨年度まで中止していた、ふれあい福祉まつりおよびマージャン交流事業の再開による事務費増加により、増額となりました。
 - ・シルバートレーニングスタジオ事業に関わる講師謝礼金等の費用が増加したことにより増額となりました。
- 高齢者活動センターの増額(約353万円増)
 - ・かがやきプラザ5階受付業務の委託費等の増加により、増加となりました。
 - ・多世代交流事業に関わる謝礼金等の費用増加により、増額となりました。
- その他事業費等の減額
 - ・退職金実績額の減少により、減額となりました。

【社会福祉充実計画について】

当初予算として約980万円の自主財源の再投下を計画しましたが、新型コロナウイルスに関する規制の緩和等に伴い、ふれあい福祉まつりおよび社協創立70周年記念事業について、内容を充実させて実施したため、当初予算を上回る約1,166万円の支出となりました。